

公民科におけるディベートの取り組み

東京都立西高等学校教諭 岡田信昭

1 3学期のディベートについて

(1) ディベートとは

ある論題について賛成と反対の立場に無作為に分かれ、証拠や事実をもとに同じ時間で討論し、相手や聴衆を説得する技術を競い、さらに勝つことを目的とするゲームです。

(2) ディベートのねらい

一生の財産「コミュニケーション能力」を育てよう～ある精神科医の意見～

今まで、精神科医として多くの患者さんの治療をしてきて、また、自分自身が一人の働く母親として生活してきて、私たちの人生の質を決めるものは「コミュニケーション能力」だと思っています。

自分の意見や気持ちを伝えられること、相手の意見や気持ちを聞いて理解できること、そして、話し合ってお互いが納得できる結論を導き出せること、そこまでを含めて私は「コミュニケーション能力」と呼びます。この能力さえあれば、自分自身もストレスをためこむこともなく、必要な援助を相手から引き出すこともできます。どんな困難な状況に陥っても、「コミュニケーション能力」さえあれば周りの人に助けをもらいながら自分の道を切り開いていけると思います。

一方、「コミュニケーション能力」がないと、どんなに学歴があっても、どんなにお金を持っていても、周りの人と気持ちのよい関係が築けないということになり、トラブルに見舞われたときにそれを乗り越えるだけの力がないということにもなってしまいます。

「コミュニケーション能力」を高めるためには、子供の頃からのトレーニングが必要だと思っています。学校教育の場で、「コミュニケーション能力」を身につけるための授業や行事を積極的に取り入れていくことも勿論大切なことです。そして、何よりも、子供たちの「コミュニケーション能力」の芽を摘まないように、親を始めとする周囲の大人たちが、まずは率先してコミュニケーションの見本を示していかなければならないと思っています。

- ① 事実を調べ、活用しながら、それに基づいて筋の通る論理的な考える力を養う。
- ② いろいろな他人の考え方を知り、広い視野からの多角的なものを見方を知る。
- ③ チームワークや積極的に自分の意見を述べる力を養う。
- ④ 社会問題に詳しくなる。

などがあります。

欧米の高校ではディベートの全国コンテストもあるほど重要な教科です。

(3) ディベートの予定時間

- 1 時間目 (本日) - ディベートの説明、グループ作り、論題選択、順番決定
- 2 時間目 - くじでチームを選んで、台本を読みながらの模擬ディベート
- 3、4、5 時間目 - 図書室またはパソコン室でグループごとの資料調査、会議な

ど

ディベート本番（5時間） それ以外に教科書の授業をします。

(4) ディベートの実際

◆今回の論題

1. 「日本は、死刑制度を廃止して終身刑を導入すべし」 肯定または否定
2. 「日本は、企業に男性社員の育児休業取得を義務化させるべし」 //
3. 「日本は、公立小学校の英語教育を必修にすべし」 //
4. 「日本は、スーパーなどのレジ袋を有料（5から10円）にすべし」 //
5. 「日本は、15歳未満の子供からの脳死・臓器移植を認めるべし」 //

◆チーム分けから論題決定まで

1. チームは4人。男子2人と女子2人の組を作り、くじ引きで4人に組み合わせる。
2. チームリーダーを決める。リーダーは連絡やまとめる係りとなる。
3. 論題から肯定か否定かの論議したいテーマを選び、黒板にメンバー名を書く。
4. 第一希望でだぶった場合はジャンケンできめる。負けたら第2希望に移る。
5. メンバー、テーマを記入した登録票を提出する。
6. (重要) 論題は自分の意見と違うことがあるが、別の考え方をすることも大切。

◆ディベートで配布するプリント作成

聞いている人の理解のために主張の要点や説明の資料などをプリント1枚にまとめたもの全員で作成し、ディベートの際に対戦相手とクラス全員に配る。ディベート前日には完成し、岡田に全員で提出に来る。そのときに少し質問をします。その後で印刷、配布する。B4の大きさ1枚。

◆ディベートの流れ及びフォーマット（形式）

時間節約のためにディベートの前に全員で教室を下図のように準備、肯定と否定側の位置に着席。試合前に、司会と両チームで協力して、資料と判定表を全員に配布しておく。

▲論題の肯定側が先攻、否定側が後攻とする。

- ① 肯定側立論 導入するプランの説明、メリット2つまでと根拠説明 4分
否定側立論 プランを導入した場合のデメリット2つまでと根拠説明 4分
メリットとデメリットは2つまでとします。
※作戦タイム1分
- ② 肯定側から否定側への質問、尋問 相手に質問、尋問をする。 2分
否定側から肯定側への質問、尋問 相手に質問、尋問をする。 2分
※作戦タイム1分
- ③ 討論 意見や主張をぶつけ、相手の議論をつぶしあう 15分
※作戦タイム1分
- ④ 否定側最終弁論 2分 討論までのまとめ、自分たちの有利な点、相手側の落ち度を審判にアピールする。

肯定側最終弁論 2分

⑤ 審判 聴いていたクラス全員で、判定票によって点数をつける。 3分

⑥ 減点の確認 以下のようなルール違反は減点にする。

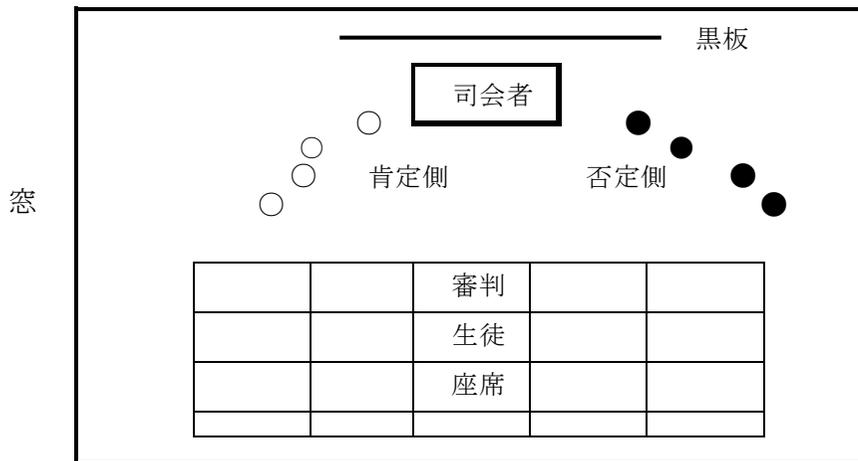
一回もしゃべらなかつた、態度が悪い、声が小さい、すぐ興奮するなど。

⑦ 勝敗 チームワーク、説得力や論理性などから、生徒全員の審判による勝ち点の多い方を勝ちとし、点数をテストに加算する。特にがんばった生徒にも加算します。

◆ルール

1. メンバーは、討論の場面の中で必ず1回は話すこと。
2. 制限時間内に終わっても時間まで待つ。逆に熱くなって守らないことのないように。
3. 相手の話をきちんと聞く。また、話す態度についてもマナーを守る。
4. 自分の反対の立場に回っても、テーマについて詳しく調べて主張の内容を作ったり、相手に反駁することが大切なので、やる気を失わないこと。そうした点を評価します。
5. 司会は生徒が行うことにします。司会者には進行マニュアルを渡します。

◆ディベート時間の教室配置（第一社会科教室で行います）



2 ディベートの具体的方法

■立論などに関する原則

1. 立論の方法

立論とは自分達の立場の正当性を根拠となる資料を示しながら主張すること。このディベートでは、メリット（長所）デメリット（短所）の比較型の方法を採用する。肯定側は「定義」「プラン」「メリット」「プランの重要性」「メリットの発生過程」「根拠」を、否定側は「デメリット」「プランの深刻性」「デメリットの発生過程」「根拠」を順番に述べる。このとき聴衆や相手側がメモをとりやすいようにそれぞれがいくつあるかを述べ、それぞれの最初には必ずナンバーリング（第1に、第2になど）をすること。

例) 「私たちは○○○という立場に立って主張します。」

「定義を述べます」「○○とはこういうことです」

「プランは3点あります」「第1に○○とします」

「そのプラン導入のメリットは○点あります。」 メリットやデメリットは1－3点にして下さい。

「第1に△△です。それは◇◇という資料によれば、・・・だからです。」

「第2に□□です。それは▽▽という統計資料から明らかです。」

※ディベートには「主張する者は必ずそれを証明しなければならない。」という最も大事な原則があるから主張の理由（根拠）は大切である。特に事実や、専門家の述べている証拠は重要である。理由（根拠）のないものはただの意見であり、無視してよいことになる。

参考)

定義—肯定側が作り、否定側が従う。

例 「**医師はガン患者に告知をするべきである**」ならば、

- ①ガンとは末期患者のガンを意味します。
- ②告知するとは、患者と家族に告げることを意味します。

プラン 肯定側が作る

例 次にプランを述べます。ガン告知に関する告知法を制定します。とか、
第一に、医師はガンが末期に近づいたら患者と家族にはっきりとガンと告げ、余命や治療を説明し、同意を求めることとします。
第二に、患者や家族の質問に時間をかけて答えるものとします。
第三に、告知を行わなかった医師は免許を取り上げます。など
定義やプランはあらかじめ肯定側が作り、否定側に示しておくこと。

メリットまたはデメリットおよび根拠の作成。

- 例 (主張、メリット)ガン患者に告知をすると景気が良くなります。
(根拠)告知された患者は余命がわかります。すると旅行や余命保険などのいろいろなことをやりたくなり、実行します。金回りが善くなって景気を良くします。
- 例 公立小中学校の昼食をお弁当にするべきである。
(メリット)好きなものが食べられます。給食の準備と手間が無くなります。
自分の気に入った食器が使えます。おかずの交換ができます。など
だが、なぜ好きなものを食べられるのがいいのか聞かれると窮するだろう。
①今の給食は嫌いなものも無理に食べさせられているので、それがなくなるのはいいことだ。などと、現状の問題を指摘、改善する方法をのべる。
②給食は悪くないが、弁当にすれば選択できる食べ物の数は増える。などと、現状に問題はないが、現状が向上することを示す。などが発展型になる。

2. 質問と回答の方法

相手の立論に対して、不明瞭な箇所を確認したり、証拠が何の資料によるものかを確認する。事前に質問内容は用紙に書いておいたり、相手の質問を予測し、回答も用意する。

3. 自由討論

論点を明確にして互いに反論し合う。時間内に必ず全員で反論にあたること。全員であたる方が審判にアピールできる。できるだけ互いの議論がかみあうよう努力しよう。相手側が的外れな回答をした場合は「質問だけに答えて下さい。」と言ってはっきり却下すればよい。また、制限時間で話せなかった立論を述べてもいい。

注意点①質問に対する逆質問はルール違反である。

- ②ディベーターおよび聴衆はマナーをわかまえること。やじ、揚げ足取り、中傷、私事に関する事などは絶対に慎むように。

4. 最終弁論

これまで展開された立論や反対尋問、自由討論での争点をしっかり押さえながら、再度自分達の立場の正当性を主張する。ここで新しい議論やテーマを持ち出すのはルール違反となる。

5. 審判

審判は、判定表に基づいてディベートを聞いていた生徒によって行う。自分の意見とは無関係にどち

らのディベーターの議論がより説得力があったかを判断する。引き分けは存在しないので必ずどちらかを勝者にする。もし票数が同じであった場合は、教師の票を入れて勝敗を決する。

注意点：自分の持っている知識とディベーターの知識とを比較して判断してはならない。まして友人関係や個人的な感情で審査してはならない。

■調査の方法

1. 立論完成の準備

- ①肯定側は論題に基づいてプランを作る。
- ②肯定側は論題を導入した場合のメリット（こんなにいい点がある）、否定側はデメリット（こんなに困ったことになる）を数点あげる。
- ③肯定側はメリットの重要性、否定側はデメリットの深刻性を、新聞記事や本、インターネットなどで調べた証拠に基づいて考える。
- ④そのメリットやデメリットの発生過程を考える。
- ⑤メリットとデメリットの中から本番用に2、3点以内に絞る。

2. 資料調査

① 資料の例

- ・『日本の論点』（文芸春秋社）『激論日本人の選択』（小学館） 現代日本の問題に関するいろいろな意見が出ている。こちらで用意します。
- ・専門書『死刑は必要か』など。学校の図書館にもありますが、数が少ないので市立図書館なども積極的に活用する。
- ・百科事典、『イミダス』、『現代用語の基礎知識』『知恵蔵』 用語調べ等の時に便利。
- ・『朝日新聞縮刷版』 過去の朝日新聞の全部の記事があります。目次をみて関係する言葉から関連する意見や記事を見つける。学校図書館入口にあります。朝日新聞縮刷版に関しては、こちらで、インターネットを使って、関係する言葉が載っている記事が掲載されている日付、ページ、見出し等をデータベースとして調べて、プリントアウトして冊子を作っておきます。それを使って記事を調べてください。
- ・『毎日新聞記事データベース』 コンピュータと専門のCD-ROMを使って過去3年間の毎日新聞の記事を調べることができます。
- ・インターネットの利用 自宅等でインターネットのできる人は、各種ホームページにアクセスして、調べてくることも可能です。フロッピーに保存してきたものは学校で印刷できます。
- ・各種雑誌 図書館には「アエラ」がありますが、他は各自で探してください。

注意！ みんなが使えるように、この期間は図書館の資料の貸し出しはしない。

絶対に勝手に持ち出したりしてはいけない。

② 博物館や資料館で調査

- ・専門の役所、医者、企業その他に直接聞いてみる。その時には失礼のないように、学校名、何の目的で行うのかなどを説明してから承諾を得るなどしてください。
- ③ アンケート 生徒、先生や親、その他の人の意見を聞くのもいい。結果を相手に知らせるのが礼儀。
- ④ 必要な部分はコピーします。申し出てください。

3. ディベート時にお互いに配る資料プリントの作成

- ① 論題、メンバー名、プラン（肯定側）、メリット、デメリット、補足資料などを B 4 の原紙一枚（岡田に取りに来る）にまとめて作成し提出する。
- ② 1 枚を原則とする。2 枚以上作ることは必要ない。
- ③ 全員で作って、ディベートの前日までに岡田に持ってくる。点検後印刷配布して下さい。

ディベート採点表 記入者 _____ 組 _____ 番 名前 _____

論是頁 日本は、15歳未満の子どもの脳死患者からの臓器移植を行えるようにすべし。是か非か。			
肯定側のメンバー			
否定側のメンバー			
立論の内容	肯定側	第1メリット	
	肯定側	第2メリット	
	否定側	第1デメリット	
	否定側	第2デメリット	
内容	評価の観点	肯定側	否定側
立論	証拠に基づいて述べられ、筋道・論理が通った話し方だったか 立論を話す態度が良く、言葉がはっきりしてわかりやすかったか	/5点	/5点
肯定側質問	肯定側は、立論を理解し、意図のはっきりした質問をしていたか 否定側は質問に対してきちんと答えていたか	/5点	/5点
否定側質問	否定側は、立論を理解し、意図のはっきりした質問をしていたか 肯定側は質問に対してきちんと答えていたか	/5点	/5点
討論	(討論はいったん5点満点で評価し、それを2倍して正式点に) 相手を崩し、または、自分たちを防御することができたか 積極的に討論に参加し、話す態度や聞く態度が良かったか	(/5点)	(/5点)
最終弁論	お互いの比較を示して、審判にわかりやすく訴えられたか。	/5点	/5点
資料	資料プリントをわかりやすく用意し、十分活用していたか	/5点	/5点
総合	チームワークがとれて、メンバーの取り組みはよい印象であるか	/5点	/5点
立論の結果①	肯定側の第1メリット、否定側の第1デメリットは通ったか 全く残ってないが1、小さいが残ったが3、完全に残ったが5	/5点	/5点
立論の結果②	肯定側の第2メリット、否定側の第2デメリットは通ったか 全く残ってないが1、小さいが残ったが3、完全に残ったが5	/5点	/5点
判定	① 合計点を出す	合計点	/50点
	② 勝ったと思うチームを○で囲む (同点は否定側の勝ちが原則)	肯定側	否定側
肯定側でがんばっていた生徒			
否定側でがんばっていた生徒			

勝利チームの勝因は？

君の個人的意見は肯定、否定のどちら？

このディベートの感想など ※ディベートをおこなった人も感想を書いて下さい。
